

第182回例会山行 氷ノ山 報告

2015年3月

北海道北東に低気圧が発達して居座り全国的に荒れ模様の天気が繰り返される今冬で氷ノ山も荒れるかと想像しながら入山した。しかし、今週の天気は少し穏やかで日本海に高気圧が3つほど連なって北高南低の気圧配置となった。7日は夜半に少し積雪(3cm程度)があったが朝から小雨模様の雪、それも東尾根を登るころには止んで生暖かい曇天となった。千本杉ヒュッテに着くころはガスに包まれてそれは翌日の午前中まで山頂付近にまつわりついていた。

ねむの木山荘では和光さん、橋本さん(関大OB)、高田和さんら山荘管理人達と田中信さんの歓待を受けて暖かいサポートに感謝。幹事の金井良さんは車で送迎や買い出しなど例会の段取りをしっかりとやっていただき毎年のことではあるが改めて感謝したい。

恒例のブン廻しは、山田、矢崎、井上の3人はスキー、居谷、山本、先田の3人は歩行で合計6人がヒュッテ一泊にて完走した。

☆期日: 2015年3月7日(土)、8日(日)

☆行程: 3月7日 氷ノ山国際スキー場→東尾根→千本杉ヒュッテ

3月8日 千本杉ヒュッテ→氷ノ山山頂→ぶん回し→ハチ高原

☆集合: 3月6日(金)夜 ハチ高原合歓木山荘: 金井良 居谷 山本 先田

3月7日(土)朝8時 氷ノ山国際スキー場リフト乗り場: 山田、矢崎

☆参加者:

◇幹事 金井良碩

◇CL 井上達男 居谷千春 山田 健 矢崎雅則 現役: 山本浩輔 先田智也

◇サポート(合歓の木山荘定着): 和光広典 田中信行 高田和三

◇留守本部: 河本卓生

☆記録:

◆3月7日 小雪、小雨後曇り、霧

8:50 氷ノ山国際スキー場駐車場リフト乗車

9:15 逆水ヒュッテ登山届提出、出発

9:30 東尾根登山口(スキーはトラージェンで夏道を登る)

10:10 東尾根避難小屋 休憩

11:07 一の谷 休憩

11:52 千本杉ヒュッテ

ねむの木山荘にて朝食をいただき金井車と和光車に分乗し、氷ノ山国際スキー場に行く。そこで山田と合流。矢崎は小路頃(おじころ)の駐車場にて金井車にてピックアップされ、千本杉ヒュッテに上がる6人がリフトにて逆水ヒュッテまで登る。登山届を出して出発。

気になる天気は小雨か小雪がパラリと降る程度でスキー場あたりはガスもなく風もない暖かい朝だ。雪は近頃の雨で良く締まっており、壺足でも潜らない。居谷さんはスキーを諦めてスノーシューを、現役の山本君、先田君はアイゼンを履き、残りの3人はザックにスキーを装着して夏道通し、トレースを伝って東尾根へと急坂を登った。春を感じる暖かさで一汗掻いて避難小屋に到着。先行していた高齢者男女混成パーティに追いつく。

東尾根にはたっぷり積雪があり、雪庇も大きく発達していた。避難小屋先のしばしば難儀する急坂も張り出した雪庇が広いスムーズな斜面を形作っていて登りやすかった。さらにその先の時々氷化し岩の出ている斜面も雪面になっていた。そこを少し登って傾斜が緩くなったところでスキーを履いた。豊富な積雪と南に張り出した大きな雪庇の御蔭で東尾根は快適なスキー登山のルートと化していた。一の谷にて一息入れて急斜面に取りついた。急斜面には昨夜の湿雪がクラストした斜面を覆っていた下層に粘着していない。スキーが横滑りしやすかったが難なく樺林の美しい台地に登りついた。

一服している居谷さんと山田さんを横目に先行する。矢崎さんと現役学生たちの後姿が

樹氷をまとった樵の古木の先に見え隠れしている。目印のモンスター樵から左手にトラバース気味にヒュッテを目指す。小さな谷を越して半分枯れた樵を過ぎると雪の小山になったヒュッテが現れた。二階東側にある明り取り窓が見えているだけですっかり埋没していた。3月初旬でここまで積っているのは初めて経験する。玄関テラスも雪に埋もれて掘り出すのに時間がかかりそうだった。幸い裏のシャッターが施錠されていなかった。掛けてあるはずの梯子も完全に埋まって段差なく二階に入ることができた。真っ暗な一階に下りてローソクやランタンを探して点灯しストーブに火を入れると落ち着いた気分になる。そのうち玄関も開通し、居谷さんと矢崎さんが窓の一部を外から除雪して明るくなり我らのヒュッテが今夜の棲家となった。

壁際に吊るしてあった飲み物パックがネズミに喰われてお茶のパックが一つ床に落ちていた。ハリガネに吊るしておけばネズミも到達できないのでそうしてもらいたいものだ。昨年の土間モルタル施工で外壁との隙間がなくなり、トイレも洋式の便座が蓋付なのでイタチやタヌキなど小屋への侵入が無くなり今まで二階に多かった糞が見当たらなくなった。一階の板の間も昨年しっかり拭き掃除したので気持ちよく過ごせた。ストーブと煙突がくたびれてきたのでそろそろ煙突も含めて更新と補修を考えなければならない。薪は今回使った結果二三日分残すのみなので、積んである玉切りを割る必要がある。それも一週間分程度なので次の手入時に薪集めをする必要があろう。小屋が暗いのでヘッドランプを点けて生活しているが、LEDランタンの明るいものを見つけて小屋の備品にしたいものだ。

小屋での料理はいつも山岳部員がやってくれるが、今年も現役二人がせっせと料理してくれた。ストーブの熾火を使った焼肉を肴にビールと焼酎で気分良くなり、続いて氷ノ山鍋が美味しくおかわりを重ねて満腹。老若語り合うはずのヒュッテではあるが古老は睡魔に襲われて早々とシュラフにもぐりこんでしまった。

◆ 3月8日 霧(ヒュッテから頂上、甕岩(こしきいわ)下まで) 後晴れ

5:30 起床

8:50 ヒュッテ 1340m 出発

10:04 休憩後氷ノ山 1509.8m 頂上出発

10:43~11:12 氷ノ山越 1250m

11:21 赤倉山 1332m

11:45 赤倉山キレット 1270m

12:10 布滝のキレット 1262m

12:17 布滝の頭 1273m

12:40~13:00 大平の頭避難小屋

13:02~13:16 大平 1180m 付近、サポート隊(橋本、和光)と出会う

13:42 小代越 1030m

13:53 高丸 1084m

14:10 ねむの木山荘着

一晩中焚き続けてくれたストーブで暖かい夜を過ごすことができた。今朝はラーメンと雑炊。夕食の鍋の汁を使った料理は良い味になっていた。山田さんが外を覗きに行つて「ガス」だと戻ってきた。厚い雲に包まれているようではなさそうなので彼の進言にしたがつて少し待機してから出発することにした。小屋の後始末は滞りなく終えたつもりだが、山本君が持ち上げた登山用のスコップ一本を小屋の外に置き忘れてしまった。

昨夜からの霧が霧氷をたっぷり成長させて樵は勿論、立てていたスキーやストックにも2cmほどのエビの尻尾が見事に付着していた。三々五々好きなルートを選びながら氷ノ山頂上を目指す。千本杉を過ぎて古千本あたりまで霧の中に杉や樵がぼうっと現れては消えていく。何度来てもこの頂上台地の広々として幻想的な景観には感動する。古生沼あたりからホワイトアウトの中を高い方に登っていくと突然山頂の避難小屋が現れるのも劇的なシーンである。ブン廻しを諦めて濃い霧の中、千本杉ヒュッテを目指して滑降開始すると方向が定めにくく心配しながら下ると古千本の杉が現れてほっとすることを思い出しつつ

今日はブン廻しをヤルゾ!と心に言い聞かす。

頂上避難小屋に単独のスキー登山者が休んでいた。見ると私と同じスカルパの兼用靴を履いている。ビンディングも TLT であった。「年取るとスキーとゴルフは道具ですね」と声を掛ける。若桜側のスキー場を今朝出発し氷ノ山越を経て山頂に来たとか。下りは甕岩の右手、ダイレクト尾根との間の沢を下って氷ノ山越に戻るルートを滑降するという。標高 1300m あたりからトラバースして峠に戻るのだろうか。彼は先に頂上を出発し、我々が氷ノ山越の避難小屋で休んでいると彼が到着したのでそのようなルートを取ったと思われる。

さて、ガスの中のブン廻し滑降である。

2011年3月6日、141回例会その日も山頂はガスに包まれていた。イザ甕岩を巻いてぶん回しへ出発、と山田さんがトップで滑降を始めた。ラストの私が出発すると皆はすぐに左手にトラバースしているではないか。「おーい、もっと下だよ」と叫んでももう遅い。先頭はどんどんトラバースしていく。行く手に岩が見える。が、しかし、甕岩とは違う。その岩の付近でやっと立ちどまった。その先に尾根が見える。とにかく尾根の上に出ようと登って一旦隊をまとめ場所を確認する。GPS は三ノ丸へ続く稜線を示していた。結局ガスの中をもう一度頂上に戻り、善後策を話し合う。皆が戦意喪失。リーダーの故緒方俊治が宣言した。「ぶん回しは止めて東尾根を下る」。

その岩は「山田岩」と呼ばれるようになった。ガスの中でははっきり甕岩と見えたようだった。今日もその出来事を話題にした。山田健さんは苦笑している。

頂上小屋を出発する場になって山田さん

「井上さん、今日はトップで下ってください。GPS を使ってはだめですよ」

と釘を刺す。

「わかった、わかった。トップで先導するよ。」

「あっ、さっき人が先行してトレースが残っている。なんだ。」

と山田さんは残念がる。私が迷うことを期待していたようだ。

それでも出だしは緊張する。先行トレースは横目にして、頂上避難小屋の向きからダイレクト尾根の方向を定めて細かいターンを繰り返してガスの中で甕岩との間の沢を確認するまで下り、そこから左手に下ると沢の下方に樹木が見えてきた。これで間違いなしとターンを繰り返して甕岩の付け根を見た。その先の稜線目指して斜滑降に移る。急斜面が良くクラストしていたのでいつかのぶん回し例会で近藤君と高田和さんが流されたことを思い出した。稜線に出、1410m ピークまで進んで後続を待つ。歩行組の居谷さん、山本君、先田君は甕岩を稜線伝いに下ってくる。雪の状態が悪いとザイルを使って下るパーティもあるのだが、三人は難なく下ってきた。「甕岩をダイレクトに下ったのは初めてだ」と居谷さんがつぶやいていた。

ぶん回しの稜線は雪の付き具合でコンディションが豹変する。今年は積雪タップリで雪庇も発達しており、どちらかと言えばよい方だった。薄く積った湿雪の下は良くクラストして堅く、ターンは難しくはないがスピードコントロールに気を使う。快調に滑降して氷ノ山越の避難小屋に到着し、歩行組を待った。小屋には居谷さんがラストで到着。振り返って見上げる氷ノ山がガスも晴れ始めて神々しい。甕岩の右手に山田岩もはっきり見える。あたりの木の樹氷に太陽の光が射して眩い。

氷ノ山越からは、赤倉山から布滝の頭までの三つのピークに挟まれた二つのキレットの通過が難所だが、今年は雪の状態が良く簡単に通過できた。一昨年は赤倉山キレットの登りで凍った夏道が出ていていやだったし、ずっと昔に布滝のキレットへの下りで雪庇が割れて亀裂が沢山出来て、岩とブッシュと崩れそうな雪塊にひやひやしながら時間をかけて下ったことがある。



氷ノ山越避難小屋: 居谷 山田 矢崎 井上 山本 先田

布滝の頭を過ぎると滑降と登りを繰り返して大平の頭手前にある避難小屋に至る。氷ノ山越を先に出発した居谷さんがトップで到着。登りでめっきり遅くなった古老がラストで到着した。このピッチは歩行組の方が速い。

大平の頭からは快適な滑降が待っている。ねむの木山荘から橋本、和光のサポート隊が出迎えに出発した報告が入る。大平の頭まで来て待っていてくれる手筈だったようだが、縦走組は快調に進んで 2 時間半ほどで到着した。下りながら出会うことにした。滑り出して二三分で大平の樺林を登ってくる二人に出会った。ビールと蜜柑の差し入れでのどを潤し、小代越を目指して滑降開始。暖気でべったりと緩んだ湿雪が重いが、細かいターンを繰り返して樹林帯を抜け、鉢伏山へ続く裸の稜線へと出た。

ブン廻しの仕上げは高丸だ。小代越から高丸の南斜面を斜滑降で鉢高原スキー場へ下ることもできるが、最後の締めには高丸に立ちたいと思い、今回もそのようにした。ゲレンデに入ると色とりどりの服装で賑わう沢山のスキーヤーを動く樹木と見立てて右に左に交わしながら下った。今年もぶん回しが無事に終わりました。

以上 記録 井上達男



デコ比ベ



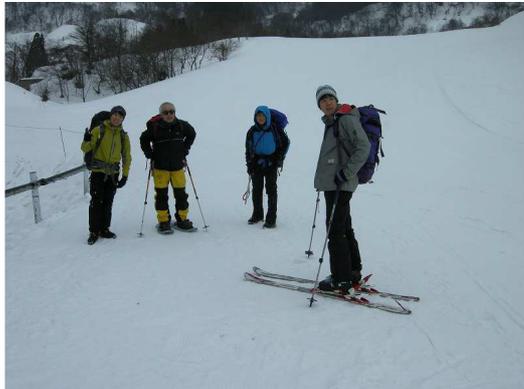
ねむの木山荘



氷ノ山国際スキー場から鉢伏山 1221.6m



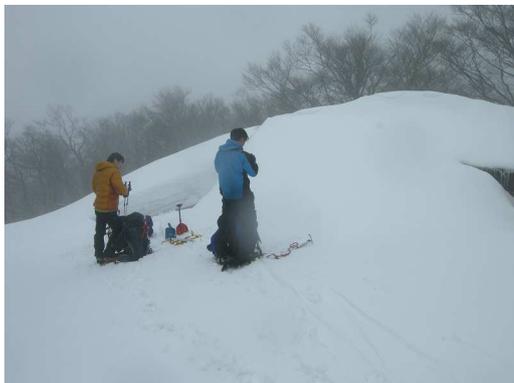
氷ノ山例会幹事の金井さん



逆水ヒュッテから出発



矢崎さん



小山になった千本杉ヒュッテ



積雪 4m 超



焼肉



良く発達した樹氷



千本杉の古木



頂上避難小屋 先田 山本



若者と古老井上



甕岩北の 1410m ピーク 山田 矢崎



ガスの山頂、甕岩を下る



甕岩北の 1410m ピーク 井上



赤倉山、布滝の頭



氷ノ山越に到着した居谷



鉢伏山 1221.6m はまだ遠い



布滝の頭に発達した雪庇



布滝のキレットと赤倉山(後方)



大平と鉢伏山 布滝の頭から



矢崎 大平の頭避難小屋



居谷 大平の頭避難小屋



先田 山本



サポートの和光



サポートの橋本



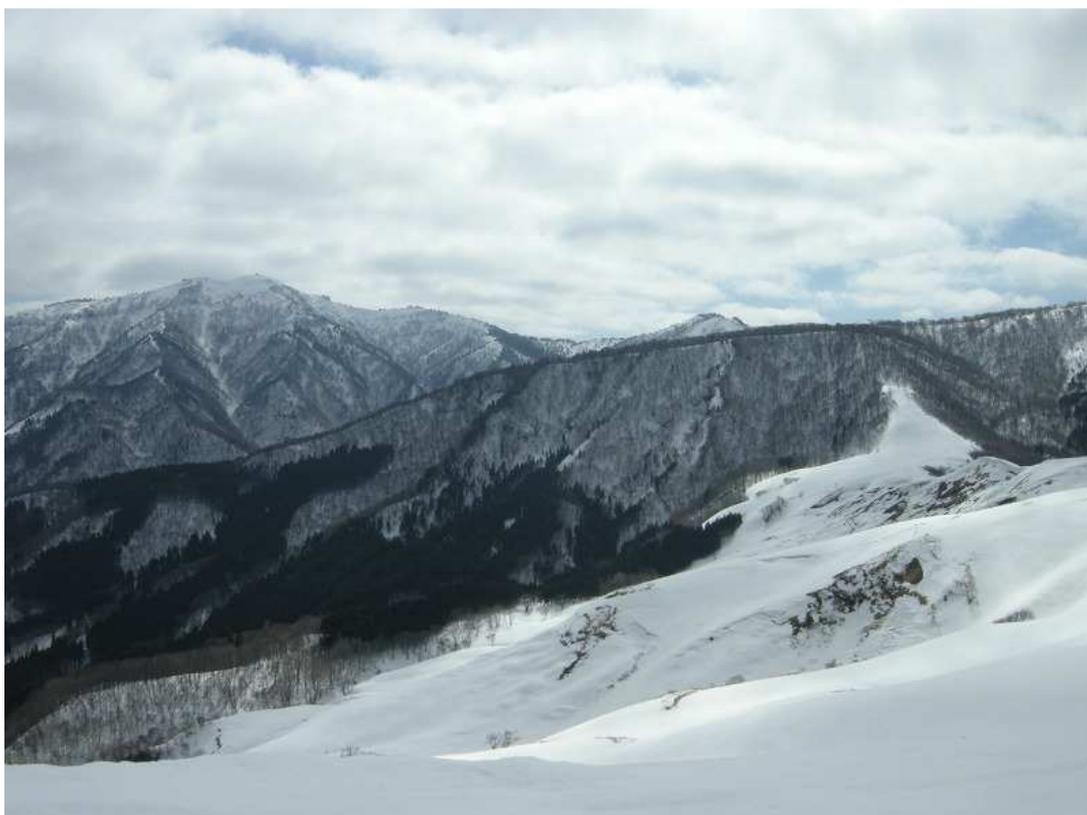
大平にてサポート隊と合流



氷ノ山北面



赤倉山 1332m と大平の頭 1235m



氷ノ山とブン廻し 高丸から



鉢伏山 1221.6m 高丸から



ブン廻しルート図

以上、写真 井上達男
以下、写真 居谷千春



千本杉



尾根沿いにコシキ（甑）岩へ急ぐ



コシキ岩を下りはじめる



コシキ岩下りは結構な傾斜だ



コシキ岩を降り立つ、雲が切れてくる。



スキー組は早や、前方のコブへ到達



徒歩組も急ぐことにする。



美しい尾根だ



コシキ岩を振り返る



氷ノ山越え小屋近し



振り返る、味わい深い尾根だ



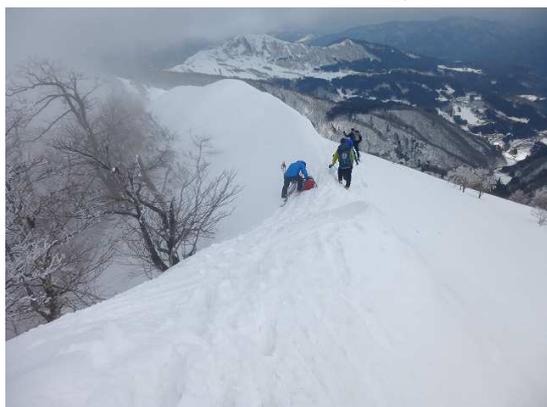
井上リーダー



氷ノ山避難小屋前で記念写真



避難小屋を出て、赤倉山を巻く



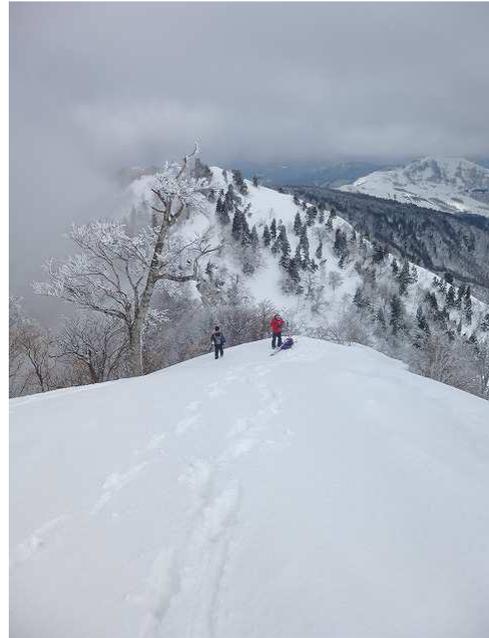
巻き終わり下りになる。井上Lは意外にも早々にスキー脱ぐ。



来し方を振り返る。



樹木の密生している領域もあるのだ



山田・矢崎両名はここでスキーを外す



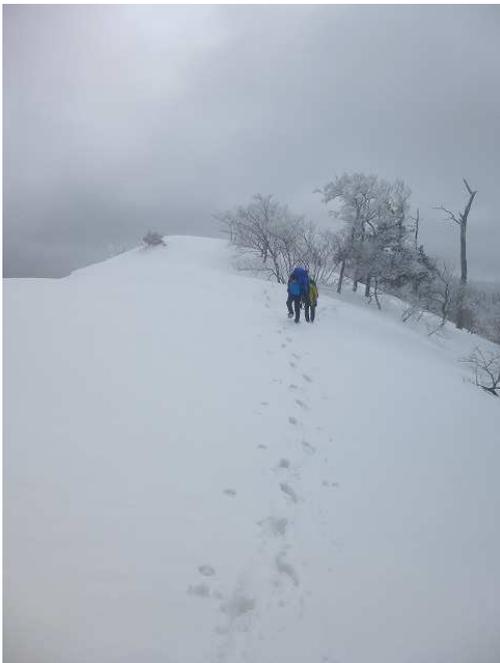
赤倉山を過ぎ、ギャップへの下り



ギャップ(キレット)



ギャップを過ぎ、岩を左に巻き上に上がる

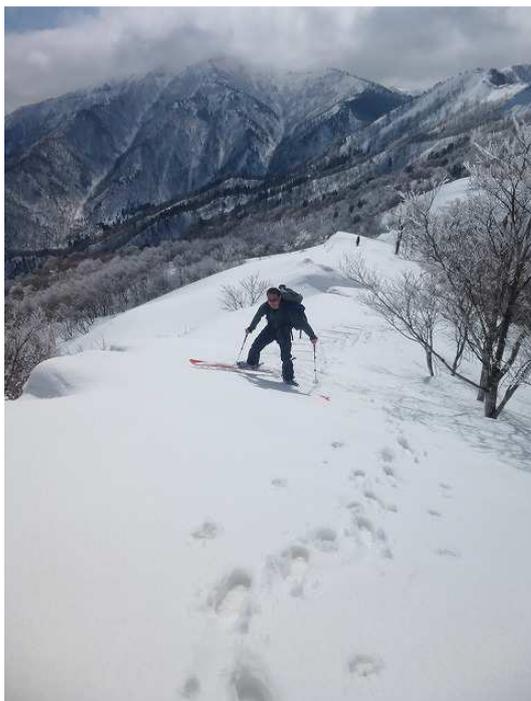


ここは徒歩組速い

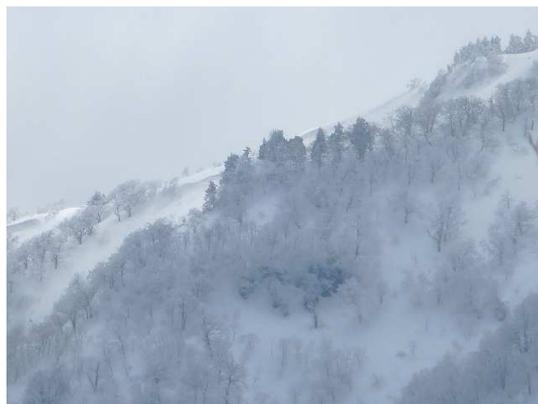


布滝の頭への尾根

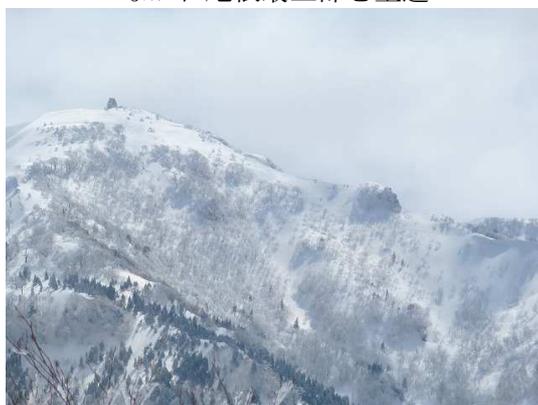




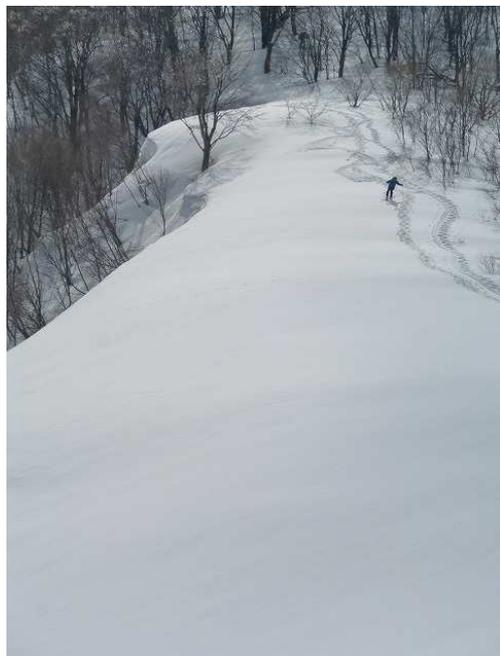
スキー組の苦闘（文廻しは結構しんどい）



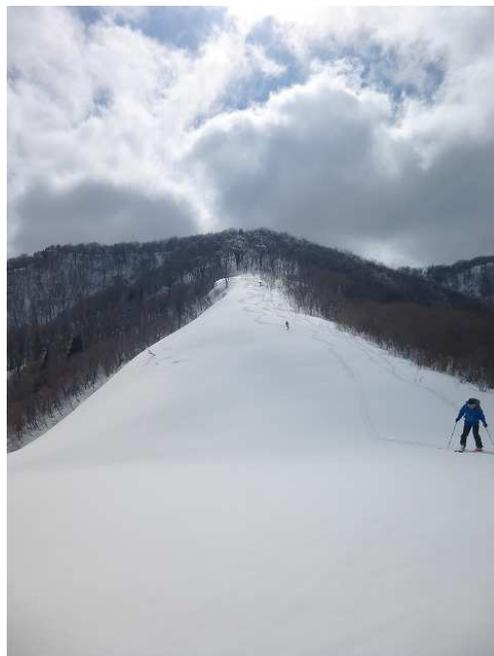
大平頭避難小屋から、
ながれ尾根最上部を望遠



頂上からコシキ岩への望遠、
スキー組のシュプールが見える



大平頭の滑降（井上氏）



同（スキー組）